


「日本理化学工業」働くことの意味

二週間のご無沙汰でした。フィリピンの台風は甚大な被害をもたらして去っていきました。観測史上世界最大。中心付近の最大風力は100メートル近く。東日本大震災に匹敵する被害になりそうです。現地は暑い、既に死者の腐敗が始まっています。衛生環境、ライフラインが全く復旧していない。でも、現地に行かなくてもできることはあります。寄付です。カード決済できます。https://www.savechildren.or.jp/donation/reg01.php?donation_code=2-52

地球環境への思いやり

日本理化GROUP株式会社

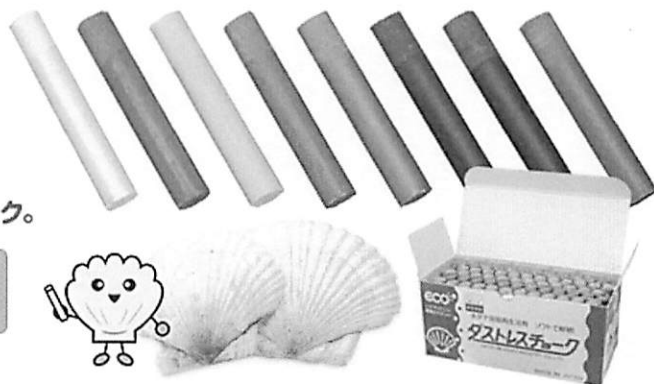
今日は日本理化学工業という会社を取り上げます。これまでも数回マスコミ等の記事になっていきますのでご存知の方も多いかと思います。社員数77人のうち、障害者が57人。この数字には驚かされます。実に74%！こんな会社が成り立つのでしょうか。しかもその半分は重度障害者です。この会社の主力商品はチョーク（小学校時代を思い出す、懐かしい黒板のチョーク）です。

ダストレスチョーク

板書が鮮明、ソフトでなめらか！
ホタテ貝殻を再利用したエコロジーチョーク。



- ◆文部科学大臣発明奨励賞受賞！
- ◆エコプロダクツ大賞 審査委員特別賞受賞！



「多摩川近くの工場には、障害者がスムーズに仕事をするための工夫が随所にある。文字や数字を読むのが苦手な人には、材料ごとに色分けした容器を使って計量したり、時計の代わりに砂時計を使ったり。粉の混ぜ合わせから成型、乾燥、荷造りまで、それぞれが役割をこなしている。」（2013年10月9日付け朝日新聞より引用）

会社の設立は1937年。後にダストレスチョーク（粉の飛ばないチョーク）を生産して日本全国のシェアの3割を占めるに至っています。そもそも障害者を雇い入れるきっかけは1959年（私の生まれ年です）。近所にある「養護学校の先生」が会社にやってきたことから始まりました。「何とか会社で雇っていただけないか」、先



代の大山社長（現会長）は慎重に考えたうえで断りました。その子たちを一生幸せにする自信がなかったからだ。しかしその先生は何度でもやってくる。教室中のあらゆるものを見て、一番簡単に作れそうなのがチョークだった。社名が日本理化学工業と書いてあり、しかも近所だ。いくら断っても再度やってくる。ついに折れて「二週間だけ働く喜びを知る」臨時採用を引き受けます。一人ではさみしいだろうから二人を引き受けました。二人は会社の就業時間の1時間前には玄関にいたといいます。そして二週間が過ぎ就業体験が終わろうとしている前日に大山



社長は十数人の社員に囲まれます。「あの子たちの就業体験は明日で終わってしまいます。どうか来年の4月からあの子たちを正社員として雇ってください。あの子たちが出来ないことがあるのであれば私たちがカバーします」。それまでの二週間二人は一心不乱に働き続けていました。言われるまで仕事をやめなかった。

こうして二人は採用されラインに配属されました。大山社長は「工場働くことよりも施設でのんびりとする方が楽ではないのか」。私もそう思います^^。ある



日法事の席で禅宗のお坊さんにその疑問を聞いてみた。
「~~そんなことは当たり前でしょう。~~幸福とは①人に愛されること、②人に褒められること、③人の役に立つこと、④人に必要とされること。このうち②から④までは施設で味合うことが出来ない。この三つの幸福は働くことによって得られるのです」。だから障害者の彼らも、働きたいと思う。彼らが働くことで幸せになれるなら、会社は利益を出すとともに社員に幸せを提供する場でなければならない、そう思った。真の幸せは働くことによってもたらされる。目から鱗です。「生きる」とは、必要とされて働き、それによって自分で稼いで自立することなのですね。

障害者を受け入れたものの、最初は苦勞の連続だった。字を読めない人がいる。

しかし色ならわかる。チョークの色に合わせて様々な工程を分けた。例えば彼らはチョークの材料を混合するとき、それぞれの粉の重さを数字で把握することが難しい。そこで、それぞれの粉が入っている容器の蓋の色と重りを同じ色と、適正な重量になるようあらかじめ調節した専用の重りを同じ色にして、赤い蓋の容器に入っている粉を量る時には赤い重りを乗せ、天秤の針が真ん中



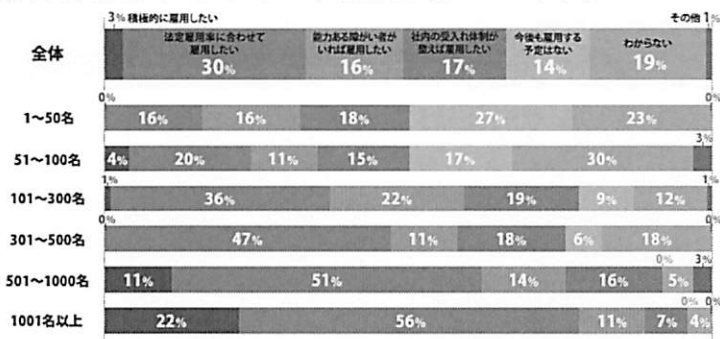
に止まったら OK と 指導したら、きちんとできるようになりました。

障害者を受け入れる社員の方もそう簡単ではなかった。手取り足取り見本を見せて「大丈夫、わかった？」と聞くと、知的障害者はみんな「うん、わかりました」と返事をします。「本当にわかったかどうか、彼らの行動を見て判断しなさい」と指導しています。もし曖昧な動きをしていたら、もう一度呼んで、よりやさしく、違った方法で教える。結果においてその仕事ができるようにすることが重要で、「わかりやすく説明し、伝えられないのは、彼らの能力

やって見せて
言ってみせて
やらせて見て
ほつちわらわは
人は動かす
しなさい

じゃなくて、指示するほうの能力がないことの証」と大山は言います。

そうした積み重ねは現在では 55 年間にわたって障害者雇用を進め、冒頭にあるように全従業員の 74% が障害者という考えられない数字になったわけです。現在、企業には障害者の法定雇用率を達成することが義務付けられています。しかし、この数字を達成している会社は少なく、罰金として徴収されます。お金を払ってことを片付けようとしている会社が多いのです。



日本理化学工業にはたくさんを見学者が訪れます。ほぼ一様に感銘を受けて帰る方が多い。ただ、残念ながら「チョーク製造」の市場は年々小さくなっています。少子化やホワイトボードに市場を奪われている。しかし何とかこの会社の存続を願いたい。見学者の多くはその場でチョークを買っていくそうです。また会社のチョークのすべてを日本理化学工業に発注する。感銘の輪が広がっていきます。現社長の言葉です「頑張っただけで利益を出して会社を継続し、彼らを絶対に路頭に迷わせちゃいけない。それが僕らの役目だと思っています。」

最後に素敵なエピソードを。最初の障害者受け入れから 50 年。インタビューが日本理化学工業を再び訪れました。その時に初老の婦人がお茶を入れてくれたそうです。大山社長「あの人が 1959 年に初めて入ってもらったかたです」見ると、お茶出しを終えると工場に戻り一心不乱に働いていたそうです。



年齢的には 65 歳を超えているでしょう。定年延長をしているそ

人 + 働 = 働 信 + 者 = 儲

うです。

言われてやったのではなく、自分でやれたという気持ちにさせる。だからこそ、自分も役に立てたと思える。そうした環境設定を、大山は心がけ、その上でうまくやれた時は声をかけてきた。人は、誰かの役に立てたと思うと、もっといろいろなことをやろうと貪欲になると、大山は言う。「知的障害者でも班長（3～4 人の部下を束ねる）になろうという子は、みんなそうです。表情を見ればわかりますよ」さあ、働きましょう。

さていかがでしたか？こんな会社があるんですね。

次回は 12 月上旬。どうやら今年は秋が短く冬に突入しそうです。テーマはメディア論。

引き続きご発注もお待ちしております。m (_) m。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

Tel 042-300-0533 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp